

行橋市は、福岡県の北東部に位置し、周防灘や平尾台、今川といった豊かな自然に恵まれ、御所ヶ谷神籠石や掩体壕などの史跡が多く残り、また、連歌、神楽などの伝統文化も数多く継承されています。さらに周辺自治体における大手自動車メーカーの立地を背景とした関連企業の集積や東九州自動車道の開通も控え、京築地域の中核都市としてさらなる発展が期待されているところです。

本市は、平成14年度から「環境と共生した躍動都市ゆくはし」を将来都市像とした第4次行橋市総合計画に基づき、各種施策に取り組んできました。

しかし、この間、急速な少子高齢化の進行、地方分権の進展、地球規模で進む環境・エネルギー問題の深刻化、地震・集中豪雨による大規模災害の多発など国や地方を取り巻く環境は著しく変化しています。特に平成23年3月に東北地方を中心とする東日本を襲った大地震・大津波は、わが国の災害に対する危機管理のあり方を根本的に見直す必要性を顕にしました。

このような課題に対応し、市民の皆様が安全に安心して暮らせるまちづくりを進めるため、平成24年度から10年間を計画期間とする第5次行橋市総合計画を策定しました。

この計画では、「安全・安心のまちの実現」をすべてのまちづくりの基調とし、豊かな自然や特産物、特色ある地域文化などの地域資源や産業集積地域に立地する好条件等を生かし、「魅力がいっぱい 人が集まる パワフル ゆくはし」を新たな将来都市像として定めたところです。この将来像実現に向け、「ひとが賑わうまち」「ひとを育むまち」「ひとをつなぐまち」の3つを基本目標に各種施策を推進していきます。

近年、地域コミュニティの衰退が課題となっています。自治体を取り巻く課題に対応し、将来都市像を実現するためには、新たな公共を担う市民や市民活動団体、そして地域コミュニティの力が不可欠です。市民の皆様には積極的に行政に参画していただき、「市民が主役のまちづくり」の推進にご理解とご協力をお願いします。

最後に、この計画の策定にあたり、熱心にご審議をいただきました総合計画審議会委員の皆様をはじめ市議会議員の皆様、校区まちづくり会議の皆様、市民意識調査に快くご協力をいただいた皆様、多くの貴重なご意見をいただいた皆様に心より感謝を申し上げます。

平成24年3月



行橋市長
八並 康一